

## 千原秀昭先生，Patterson-Crane 賞を受賞

今年の Patterson-Crane 賞が，初代の化学熱学実験施設長（1979～1984年）である大阪大学名誉教授 千原秀昭先生に贈られた。その授賞式は5月11日にオハイオ州のデイトン大学で行われた。

この賞は，米国化学会のデイトン支部によって“化学のドキュメンテーションに貢献した人を讃えて授与するため”に1949年に創設されたものであり，1974年からは，ケミカルアブストラクツ（C A）の編集委員を務めた Austin M. Patterson（最初の受賞者）と E. J. Crane（1953年受賞）の名を冠するようになっている。隔年に受賞者を出しており，千原先生は23人目（日本人としては初めて）ということになる。1988年に受賞された丹羽賞とともに化学情報の分野では極めて名誉な賞である。



千原先生は，1990年に停年退職されるまで大阪大学理学部において，化学熱力学と磁気共鳴法を駆使して主として固体の構造と物性を研究され，この分野で数々の成果を残された。しかしその一方で，すでに1954年には日本 CA 抄録者会を組織され，化学情報協会の設立（1971年）に際しては中心的な役割を果たされたわけで，一学問分野に留まらず，化学情報を共有することの必要性を身をもって説いてこられた姿勢には全く頭の下がる思いである。科学技術の情報に関して欧米諸国から“情報の輸入国でありながら発信しない国”との批判がある昨今，千原先生の永年にわたる献身的な努力が国際的に認められたということであり，今回の受賞はわれわれにとっても喜ばしい限りである。

現在は，国際純正・応用化学連合のデータベース委員，学術会議情報研連の委員，省庁の情報関係のいろいろな委員を務め，日本化学会の欧文誌をデータベース出版方式に切り替えるプロジェクト（平成5年1月号から実現）の中心的役割を果たすなど，化学情報協会（東京）の専務理事として相変わらず多忙な日々を過ごしておられる。

（稲葉 章 記）